

第7次 美浦村 総合計画

後期基本計画
2025-2029



人と自然が輝くまち 美浦
知りたい・訪れたい・住んでみたい

令和7年3月

□村 章

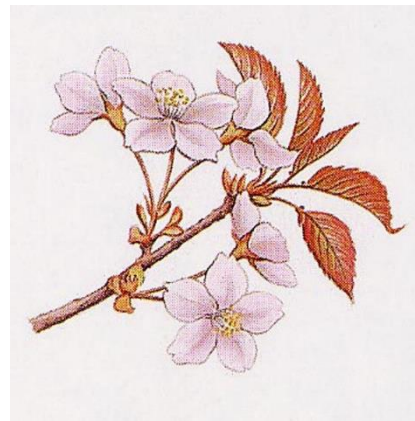


村章は、美浦村の頭文字の「み」を図案化したもので、3つの円は合併した木原、安中、舟島の一部舟子が仲よく協力して、豊かな生活、住みよい郷土を創っていくことを示しています。

□村 花 [やまゆり]



□村 木 [やまざくら]



□美浦村民憲章

わたくしたちは、恵まれた自然と由緒ある歴史を継承し、よりよい美浦村のあすをめざしてこの憲章を定めます。

- 1 自然を愛し、美しい村をつくりましょう。
- 2 教養を深め、文化のかおり高い村をつくりましょう。
- 3 心身を鍛え、明るい村をつくりましょう。
- 4 思いやりを深め、温かい村をつくりましょう。
- 5 仕事に励み、豊かな村をつくりましょう。

はじめに

美浦村は、紫峰筑波山を望む霞ヶ浦の水面と、多彩な緑が一体となった景観を背景に、国指定史跡の陸平貝塚など歴史ある湖岸文化を育んできた、霞ヶ浦南岸に位置する自然豊かな村です。

このような環境を背景に、本村では、首都東京まで 60 km 圏内に位置する立地環境を生かし、日本中央競馬会美浦トレーニング・センターの開場や日本テキサス・インスツルメンツ（株）をはじめとする優良な事業所の誘致などに取り組み、発展を続けてきました。



本村では、令和 2 年 3 月に総合的なまちづくりの指針となる美浦村第 7 次総合計画を策定し、「人と自然が輝くまち 美浦 知りたい・訪れたい・住んでみたい」を本村が目指す将来像を掲げ、令和 2 年度から令和 11 年度までの 10 年間にわたってまちづくりの指針となる「第 7 次美浦村総合計画」を策定しました。この将来像の実現に向け、村づくりをテーマに 6 つの基本的な方向として「自然豊かで美しく住みよい村づくり」、「子どもの健やかな成長を育む村づくり」、「村民が尊厳を持って豊かに暮らせる村づくり」、「いつまでも安心・安全に暮らせる村づくり」、「個性と活力にあふれる村づくり」、「みんなと一体となって進める村づくり」を掲げ各種施策を展開し、まちづくりを推進しています。

近年では、大山湖畔公園（鹿島海軍航空隊跡）の一般公開、ウマ娘や映像研には手を出すなどの IP コンテンツを活用した観光事業を展開し、村の賑わい創設と活性化事業に取り組んでいます。

本計画策定から 5 年が経過する中で、人口減少や少子高齢化の急速な進行、それに伴う働く世代の減少、そしてデジタル田園都市国家構想などデジタル社会への移行や地球温暖化防止に向けた脱炭素社会の実現、さらには規制緩和やグローバル化によってもたらされた地場産業の空洞化、多発する大規模自然災害など、本村を取り巻く環境は大きく変化しています。これまでの各種施策の成果等を検証、社会情勢をふまえつつ新たな指標を取り入れ、後期基本計画期間の 5 年に向けて「第 7 次総合計画後期基本計画」を策定しました。

今後の計画実現にあたっては、これまで同様に皆様のご理解とご協力をいただくなかで村の将来像を具現化していきたいと考えております。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました村民の皆様並びに関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和 7 年 3 月

美浦村長 中島 栄

目 次

序論

第1章	計画の位置づけ	1
第2章	計画策定の背景	3
第3章	村民の意向把握	10

第1編 基本構想

第1章	基本理念	11
第2章	将来像	12
第3章	将来指標	14
第4章	地域づくりの将来像	16
第5章	施策の体系	28

第2編 重点戦略

第1章	重点戦略の位置づけ	35
第2章	重点戦略の個別プログラム	36

第3編 後期基本計画

第1章	自然豊かで美しく住みよい村づくり	58
第2章	子どもの健やかな成長を育む村づくり	69
第3章	村民が尊厳を持って豊かに暮らせる村づくり	84
第4章	いつまでも安心・安全に暮らせる村づくり	96
第5章	個性と活力にあふれる村づくり	106
第6章	みんなと一体となって進める村づくり	116

- ・ 目次は、巻頭に全体目次、各編頭に詳細目次を掲載しています。
- ・ 用語解説は、各編末（前期基本計画は章末）に掲載しています。

序論

第1章 計画の位置づけ

第2章 計画策定の背景

第3章 村民の意向把握

序論 目次

第1章 計画の位置づけ	1
1. 計画策定の趣旨	1
2. 計画の構成と期間	2
第2章 計画策定の背景	3
1. 社会環境の変化（時代潮流）	3
2. 美浦村の概況	5
3. 人口の状況	7
第3章 村民（中学生がいる世帯を対象）の意向把握	10
1. アンケート調査の概要及び調査結果	10

第1章 計画の位置づけ

1. 計画策定の趣旨

総合計画は、長期的な展望に立って地方自治体の目指すべき将来像を描き出し、その実現に向けて、総合的かつ計画的な行政経営のための指針を示すものです。

美浦村では、第7次美浦村総合計画を令和2（2020）年3月に策定し、村の将来像「人と自然が輝くまち 美浦」の実現に向け、まちづくりを進めてきました。

また、人口減少を克服し、将来にわたって活力ある地域社会を実現していくため、「第2次美浦村まち・ひと・しごと創生総合戦略を一体的に策定し、取り組みを進めてきました。

しかしながら、人口減少や少子高齢化の急速な進行、それに伴う働く世代の減少、そしてデジタル田園都市国家構想などデジタル社会への移行や地球温暖化防止に向けた脱炭素社会の実現、さらには規制緩和やグローバル化によってもたらされた地場産業の空洞化、多発する大規模自然災害など、本村を取り巻く社会情勢は複雑・多様化し、大きく流れを変えています。

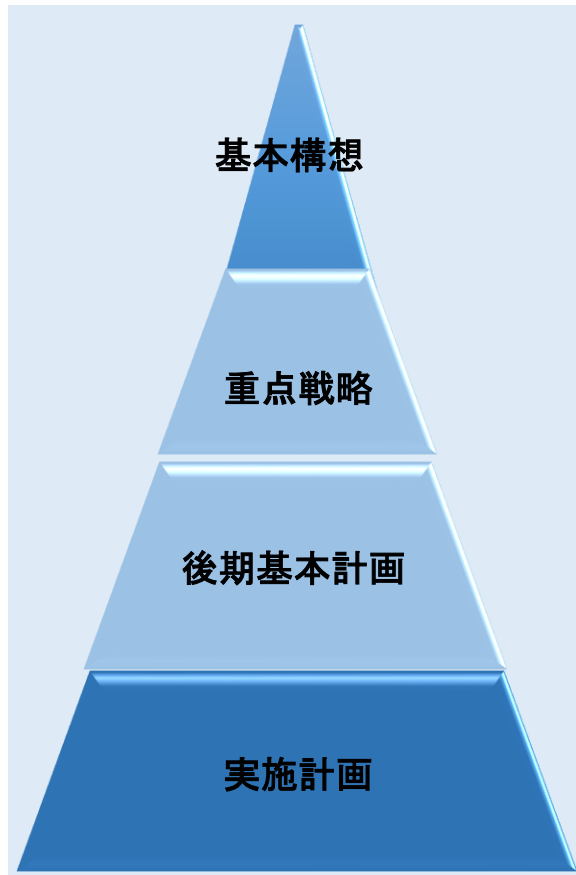
また、変わりゆく社会情勢の変化に対応するための取り組みは、本村でも喫緊の課題であり、さらに、それらに伴う一層の財政負担の増加、地方分権・地域主権への制度改革など、地方自治体にとって大きな変革の時代を迎えています。

こうした中、第7次美浦村総合計画前期基本計画（以下、「前期基本計画」という。）が令和6（2024）年度をもって終了するため、現在の時代背景など、村民の暮らしや地域の社会経済情勢に与える影響を的確に捉えつつ、村民の多様な声や要請に対応した令和7（2025）年度以降のまちづくりの新たな指針として、第7次美浦村総合計画後期基本計画（以下、「後期基本計画」という。）を策定します。

2. 計画の構成と期間

(1) 計画の構成

総合計画は、美浦村におけるまちづくりの最上位に位置づけられる計画であり、「基本構想」「重点戦略」「基本計画」「実施計画」で構成されます。



基本構想

時代の潮流や美浦村の行政運営の課題などを踏まえ、基本理念、将来像、将来指標、地域づくりの将来像を明らかにし、これらを実現するための施策の体系を示します。

重点戦略（重点的な取組）

総合計画の重点項目の役割を持ち、美浦村のリーディングプロジェクト[※]として、優先的に事業を進めていくための計画としての位置づけを持ちます。

後期基本計画（分野別計画）

基本構想に掲げる将来像を実現するための具体的な、各分野での取り組むべき施策の基本方向と施策の体系を明らかにします。

実施計画

基本計画で示した施策の基本方向・体系に従い、具体的な事業の内容を明らかにするとともに、毎年度の事業計画を示します。

計画期間は、3年間のローリング方式[※]により毎年度見直しを行います。

(2) 計画の期間

「基本構想」「重点戦略」「基本計画」「実施計画」の役割に応じた計画の期間を下記のように定め、総合計画に掲げる将来像の実現に向けて着実な推進を図ります。

図 計画の期間

	(年度)									
	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)
基本構想	10年間									
重点戦略	5年間					5年間				
基本計画	前期基本計画 5か年					後期基本計画 5か年				
実施計画	3年間	3年間	3年間	3年ローリング	3年ローリング	3年ローリング	3年ローリング	3年ローリング	3年ローリング	3年ローリング

第2章 計画策定の背景

1. 社会環境の変化（時代潮流）

（1）人口減少・高齢化の進展

国勢調査によるわが国の総人口は、2005年(平成17年)の1億2,777万人をピークに減少に転じ、2020年(令和2年)の国勢調査では、1億2,622万7,000人となっています。

また、国立社会保障人口問題研究所の推計(平成29年推計)では、減少が続くとされ、2040年(令和22年)には1億1,092万人になると見込まれ、生産年齢人口の減少や社会保障費の増加を招き、地域経済の衰退や財政負担の増加等の影響が懸念されます。

（2）安心・安全な基盤づくり

近年、気候変動による災害リスクに対する関心が高まっています。また、わが国は2011年(平成23年)に発生した東日本大震災等、地震災害に対するリスクも有しており、このような災害に対する防災・減災や、迅速な復旧・復興を実現するための取り組みが求められています。

一方、日常生活においても、地域コミュニティ^{*}の希薄化・高齢化が進む中で、交通事故や犯罪の防止といった取り組みも求められており、日常生活の様々な面で安全・安心の確保が強く求められています。

（3）少子化の進展

少子化の要因として、非正規雇用の増加、給与所得の減少、晩婚化、さらには子育て費用の増加等が挙げられており、若い世代や子育て世代が、夢と希望を持って生活できる社会づくりに向け、就業や結婚、子育て等、多面的な分野での支援が必要となっています。

（4）地方財政状況の深刻化

人口減少、地域経済情勢の低迷により、本村の収入財源（財政規模を含む。）の縮小傾向は避けられない状況となっています。また、社会保障費の増をはじめ、老朽化した公共インフラ等施設の維持管理や改修に要する経費等の割合が高くなり、今後、財政運営状況が一層厳しくなると見込んでいます。そこで、限られた財源を有効に活用するため、計画事業の取捨選択を適切に行うなど、取組の程度や施策実施範囲の再確認を行いつつ、最小の経費で最大の効果が得られる、健全で持続可能な財政運営が求められています。

（５）公共施設の最適な配置

本村では少子化の進行により、児童数が減少したことから、令和 6 年度に新設の統合小学校の整備を行いました。閉校による小学校跡地の有効活用に向けては、「美浦村学校跡地利用基本方針」に基づき、公共施設の最適化と地域のニーズを勘案しながら、効率・効果的な行財政運営を図る必要があります。また、村が保有する公共施設等の老朽化対策については、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることを踏まえ「美浦村公共施設等総合管理計画」に基づき、財政的負担の軽減・平準化を図りながら、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に進めることが求められています。

（６）地域間競争の激化

地域間競争がますます激しさを増す中、いかに「美浦っていいな」を追求するかが重要です。人口減少や少子高齢化に歯止めがかからない状況においては、本村ならではの地域資源や個性を磨き、独自性を発揮することにより、村内外の認知度を高め、移住・定住施策の推進、観光入込客数や関係人口等の増加を図るなど、具体的な対応策を考察・実践する仕組みを構築し、個性と魅力のあるまちづくりを推進していく必要があります。

2. 美浦村の概況

(1) 位置・交通

美浦村は、関東平野の北東部、茨城県の県南地域に位置し、首都東京まで 60 km、空の玄関口である成田まで 40km の圏域にあり、南部は稲敷市、西部は阿見町と接しています。北部と東部は霞ヶ浦に面し、北西部に筑波山を望むなど、広がりのある湖面と緑豊かで多様な自然環境が一体となった田園景観に恵まれています。また、阿見町、河内町とともに稲敷郡を構成しています。

交通面では、幹線交通網として、村の中央を国道 125 号が東西に走っています。さらに村内区間において国道 125 号バイパスの整備が進んでおり、美浦村の新しい骨格軸としてさらなる利便性の向上が期待されます。また、近隣には常磐自動車道の桜土浦インターチェンジ、首都圏中央連絡自動車道の阿見東インターチェンジや稲敷インターチェンジ等が整備されており、平成 29（2017）年に首都圏中央連絡自動車道が県内全線開通したことで首都圏へのアクセスが大幅に向上しました。

公共交通においては、土浦駅～江戸崎（稲敷市）区間を結ぶ民間運営の路線バス、予約会員制のデマンド型乗合いタクシー※（やまゆりタクシー）が中心となっています。地域交通は乗合いタクシーが担っていますが、需要面や利便性においては課題があり、村民の自動車依存は続いています。

図 美浦村の位置

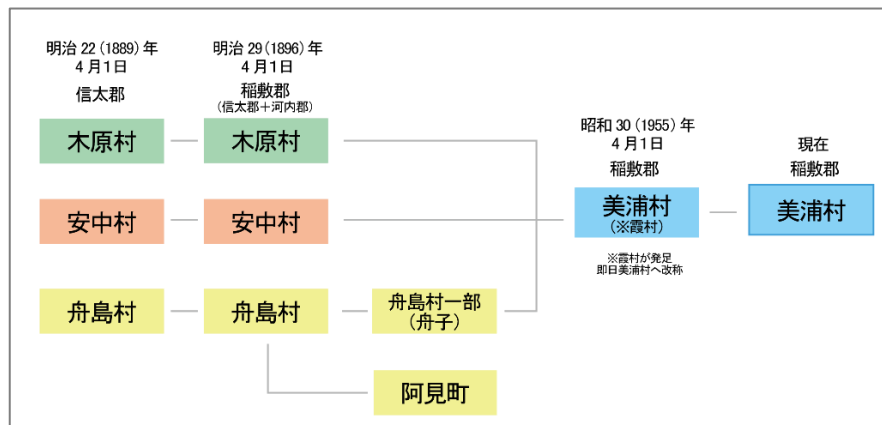


(3) 美浦村の沿革（これまで）

美浦村は、霞ヶ浦での漁労や陸地での農耕など、古くから自然に恵まれた暮らしが営まれてきた地域です。また、村内には縄文時代の陸平貝塚、中世の平山城である木原城址城山公園、明治時代の小澤家住宅などの貴重な史跡や文化財等があります。

現在の美浦村は、昭和 30（1955）年に木原村、安中村、舟島村の一部（舟子）の 3 村が合併したことで誕生しました。日本に 2 箇所しかない日本中央競馬会の調教施設（日本中央競馬会美浦トレーニング・センター（以下、J R A 美浦トレーニング・センターという。））の誘致や日本テキサス・インスツルメンツ合同会社、株式会社ホギメディカル等の先進的な工場の誘致などを行い、現在まで発展が続いてきました。

図 美浦村の沿革

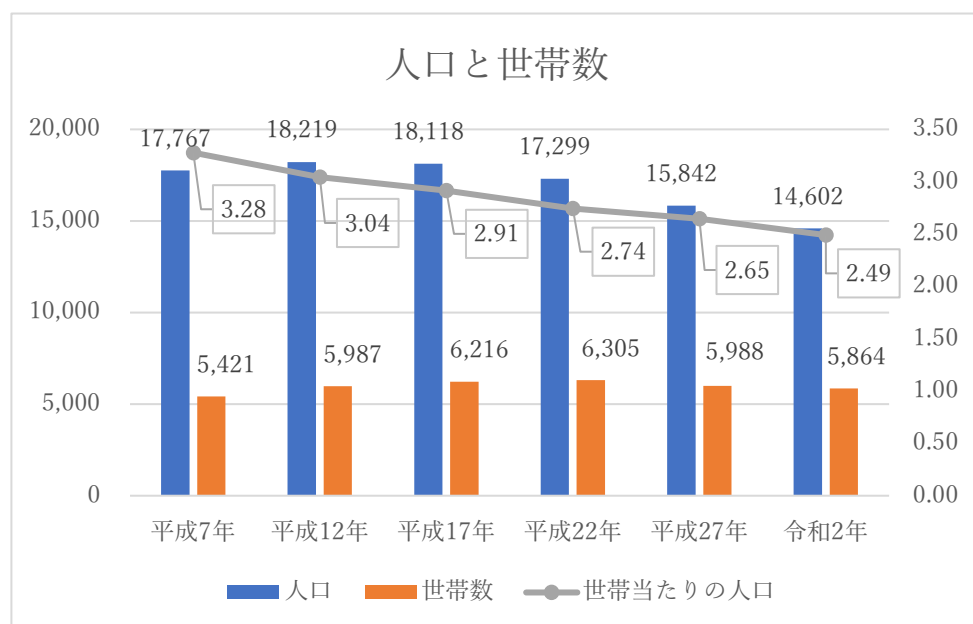


3. 人口の状況

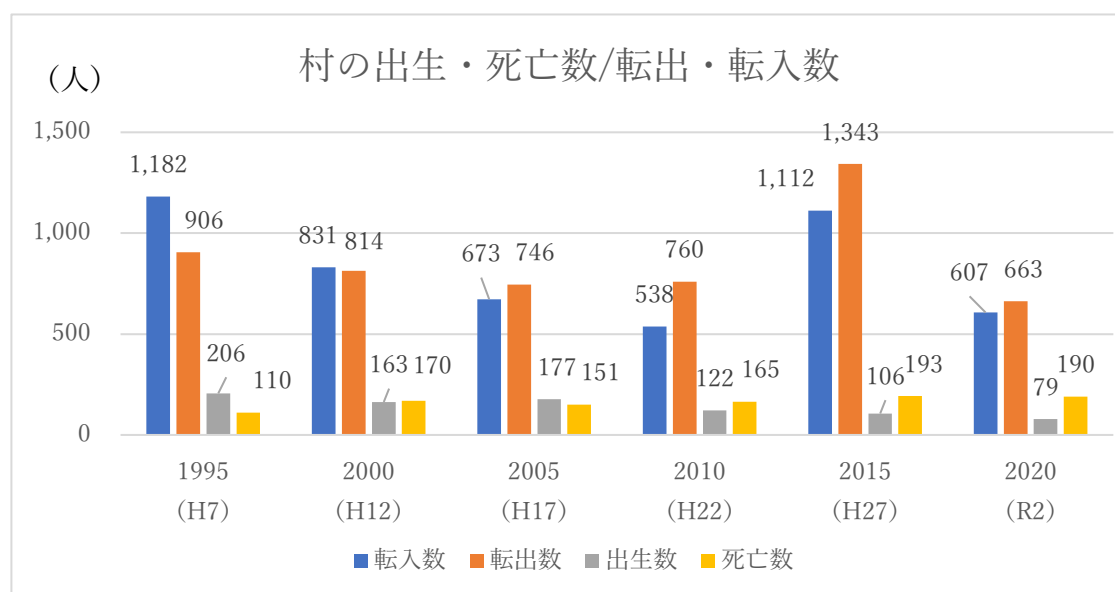
(1) 人口と世帯数の推移

美浦村の人口は平成12(2000)年をピークに減少傾向へ転じ、令和2(2020)年では14,602人となっています。

美浦村においても、人口減少の進行が顕著となっており、少子化に加えて若年層の世帯分離に伴う村外への流出、出生者数に対し死亡者数が上回っている自然減も一因として考えられます。

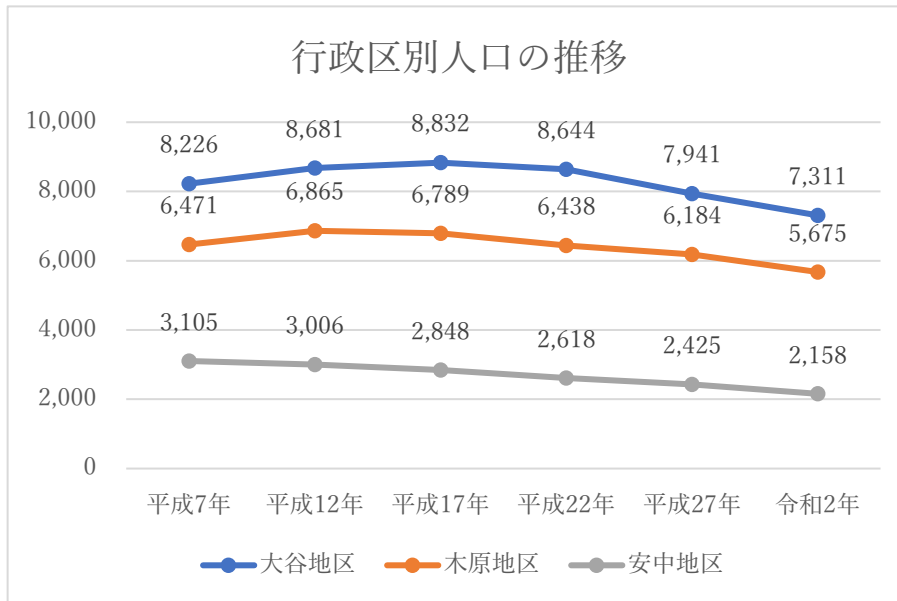


出展：国勢調査



総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

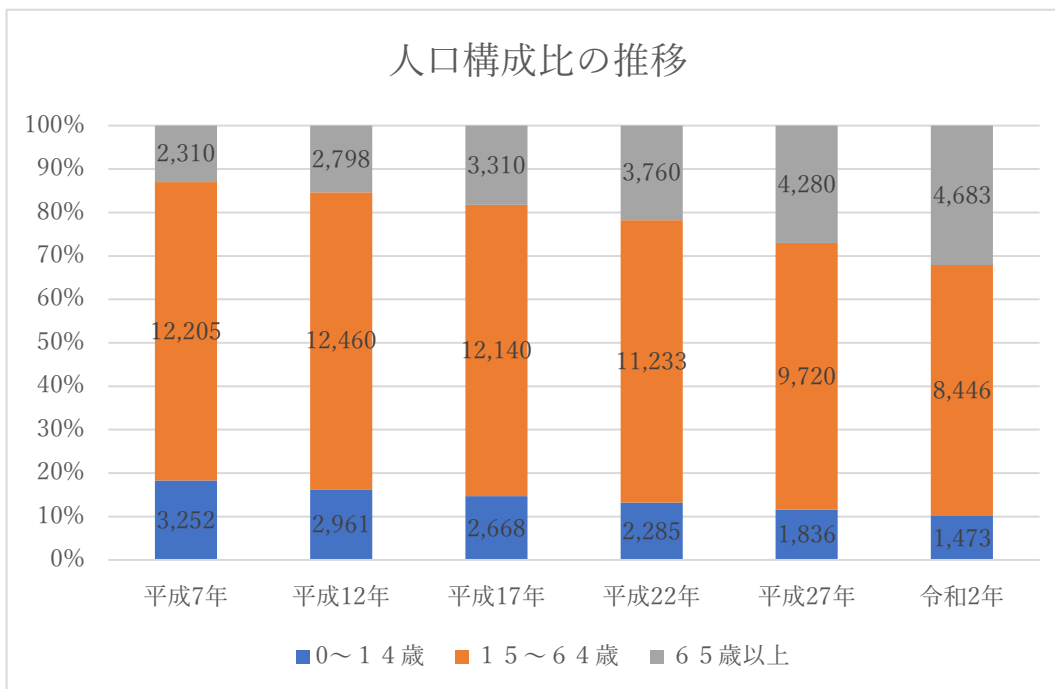
＜参考＞行政区別の人口の推移



出展：住民基本台帳

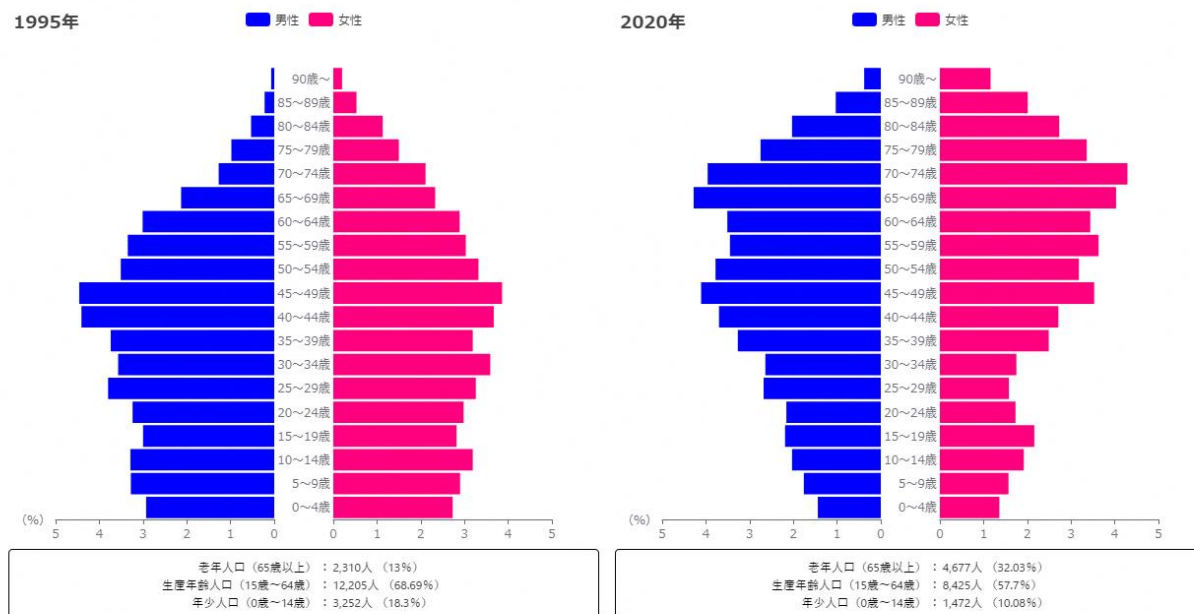
（３）人口構成比

0歳から14歳までの年少人口と働く世代でもある15歳から64歳までの生産年齢人口が減少する一方で、65歳以上の老年人口は増加しており、令和2年度の高齢化率は32.1%に上昇しています。



出典：国勢調査

美浦村の人口構成比を示す人口ピラミッドの平成 7（1995）年と令和 2（2020）年の比較をみると、「ピラミッド型」から、少子高齢化を示す「つぼ型」に移行しています。



【出典】

総務省「国勢調査」、国立社会保健・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

第3章 村民（中学生がいる世帯を対象）の意向把握

村内居住者の視点として「中学生アンケート調査」及び「中学生の保護者へのアンケート調査」を実施し、意向を把握しました。

1. アンケート調査の概要及び調査結果

（1）中学生及び保護者（父母・祖父母）アンケート調査

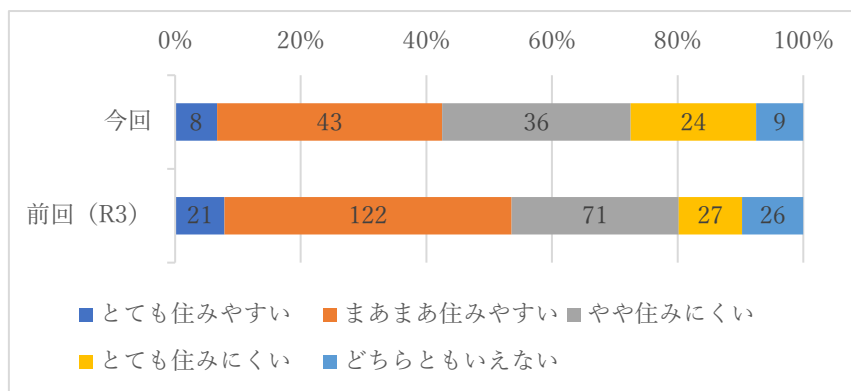
前回からの経年変化や日常生活に関連する内容に絞って調査項目を作成し、アンケート調査を行いました。

□実施概要

- ・対象者：美浦中学校（全校生徒）・その保護者（世帯同居の場合は祖父母にも依頼）
- ・実施方法：美浦中学校を通じて実施
- ・実施時期：令和6（2024）年5月24日（金）～6月12日（水）
- ・回収率（回収数）：中学生は、74.1%（225人／271人）
保護者は、120世帯／252世帯

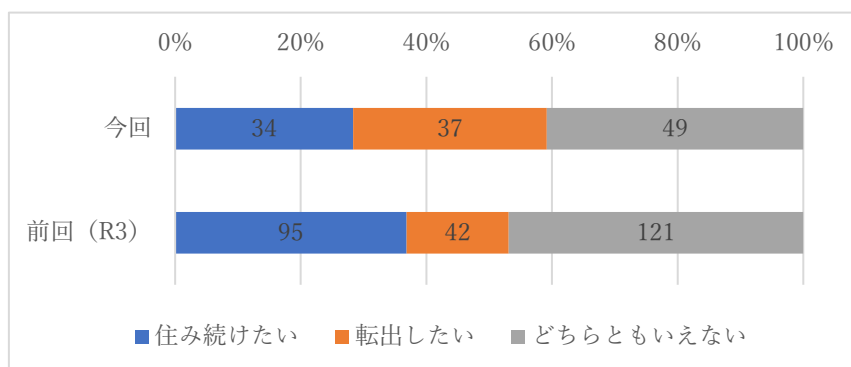
①美浦村を住みやすいと感じているか

住みやすいと感じている人の割合が減少



②美浦村に住み続けたいと感じているか

転出したい人の割合が増加



論 用語解説

初 出	用 語	解 説
2p	リーディングプロジェクト	事業全体を進める上で核となり、先導的な役割を果たすプロジェクトのこと
2p	ローリング方式	複数の年度にまたがる中長期計画を策定するための方法の一つで、毎年の変化を考慮して計画を見直し、必要な改訂を行うやり方のこと 毎年修正や補完などを行うことで、変化する経済・社会情勢に弾力的に対応し、計画と現実が大きくずれることを防ぐ
3p	地域コミュニティ	住民の相互交流が行われている地域社会や、そのような住民の集団のこと
5p	デマンド型乗合いタクシー	事前予約型の運行形態で、乗り合う人を順に迎えに行き、目的地へ送迎する公共交通サービスのこと

